

芦屋市環境処理センター

「もの」は地球の「資源」^{しげん}でできています。

「もの」を大量に作れば、地球の「資源」^{しげん}は減っていきます。

また、いらなくなったり、使えなくなった「もの」は燃やされ、灰^{はい}になりますが、灰^{はい}を埋め立てる場所も不足しています。地球にやさしい社会をつくるために、みなさんが出来ることを一緒に考えてみましょう。



3Rってなに？

① ごみをなるべく出さない

Reduce:リデュース

② 繰り返し使うこと

Reuse :リユース

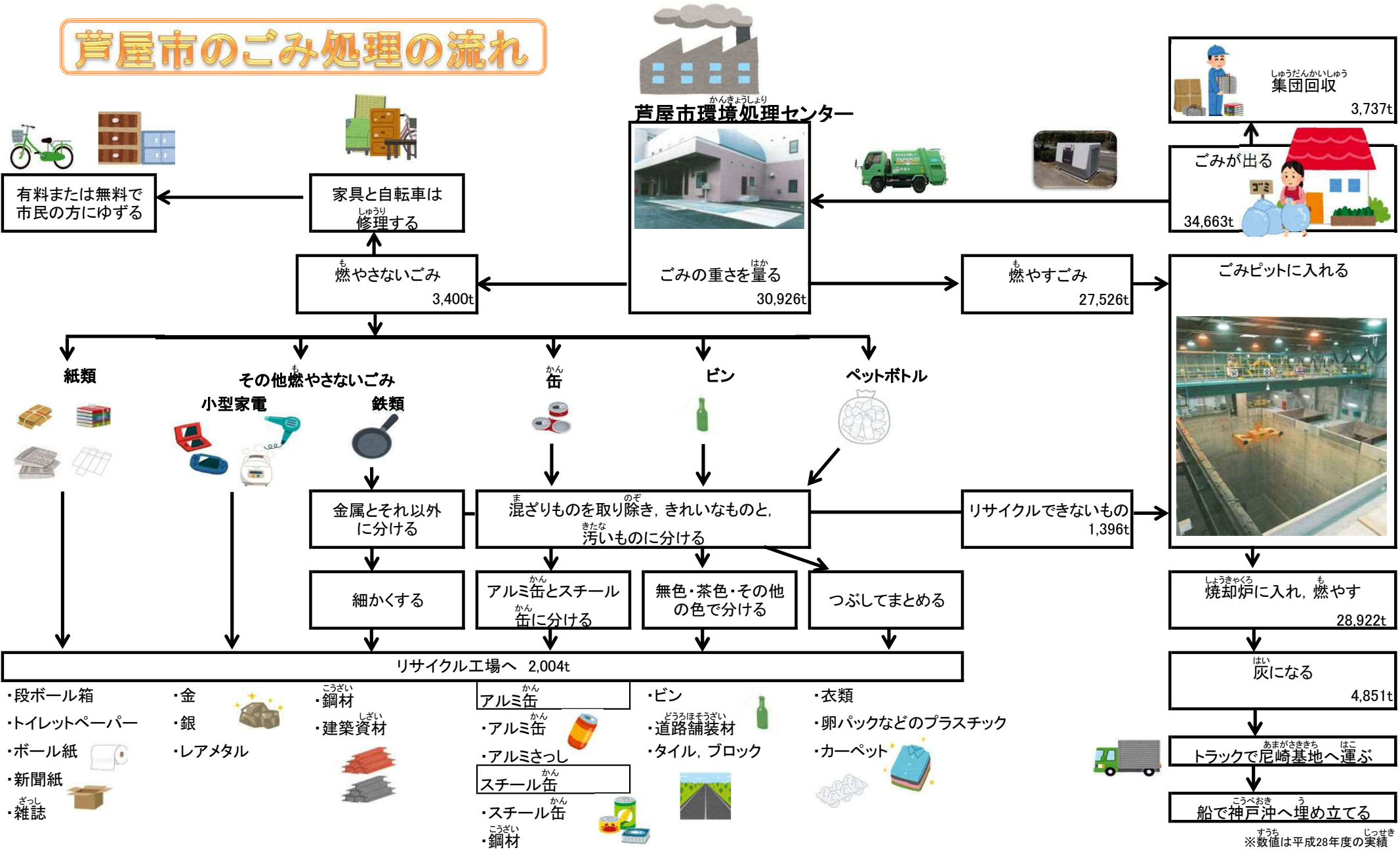
③ 資源^{しげん}として再利用^{さいりよう}すること

Recycle:リサイクル



芦屋市環境処理センター

芦屋市のごみ処理の流れ



●ごみ処理の歴史 (大八車)



近代化前後のごみ処理は、主にごみを出す本人が行っていました。そのため、しばしば空き地等にごみが捨てられ、不衛生な状態になり、様々な伝染病が流行しました。そこで、街全体を清潔に保つことが重視されるようになりました。

芦屋市でも、大正時代に都市化が進み、ごみ処理が重大な問題となり、大正15年頃には大八車でのごみ収集が始められ、野焼きなど方法で処理を始めました。

1960年代以降、日本では高度経済成長にともない、大量にものを生産・消費するようになり、ごみは急速に増えました。また急速な工業化のため、公害がおき、たくさんの健康被害をもたらしました。

1980年代以降は、バブル景気により、ますます生産や消費が活発になり、ごみ量が増え続け、灰を埋め立てる最終処分場の利用可能年数が減りました。

これらのことから、公害問題など生活環境の保全に取り組むようになり、ダイオキシン類などの有害物質対策やごみを減らすための3Rが進められています。

●芦屋市の現状

項目	平成28年度実績
環境処理センターに搬入されるごみ	
燃やすごみ	27,526t
燃やさないごみ	3,400t
計	30,926t
資源ごみ集団回収	3,737t
合計(ごみ排出量)	34,663t
人口(平成28年10月時点)	96,191人
1人1日当たりのごみ排出量	987g/人・日

項目	平成28年度実績
最終処分量	4,851t
資源化量	5,741t

(リサイクル率: 16.56%)



●芦屋市環境処理センターの概要

区分	施設・設備概要
収集・運搬	<p>ごみをより衛生的・効率的に収集するため、ごみ収集車両及び廃棄物運搬用パイプライン施設での収集をしている。</p> <p>回転板式塵芥車(2トン) : 9台 圧縮板式塵芥車(2トン) : 2台 リフト車(2トン) : 3台 軽自動車(ダンプ) : 1台 軽自動車(連絡車) : 2台</p> <p>芦屋浜及び南芦屋浜地域(一部除く)で直径50cmの輸送管(地下埋設)で空気流により燃やすごみの一部を収集・運搬している。</p>
中間処理	<p>全連続燃焼式焼却炉 115t/24h×2基 供用開始:平成8年3月(4代目) 処理形式:ストーカ炉</p> <p>缶圧縮設備 10t/8h 切断設備 ー 破碎設備(燃やさない) 5~8t/h ペットボトル減容施設 300kg/h</p>

